

FEB 13: TIBETAN INDEPENDENCE DAY

སྤྱི་བོད་གཞིའི་ལོ་རྒྱུས་ལྟར་བཤུ་གསུམ་ལ་ བོད་རང་བཙན་ཉིན་མོ།

FEBRUARY 13, 2014: CELEBRATING THE LEGACY OF THE TIBETAN EMPIRE

SECURE THE PAST, SHAPE THE FUTURE



チベットの「インディペンデンス」を記念する国際キャンペーンに賛同して、SFT Japanも2月15日（土）、独立国チベットの歴史を改めて振り返るワークショップを開催します。

チベット史研究を第一線でリードする専門家を講師に、中国がねじ曲げようとしているチベットの歴史的事実をたどるとともに、ダライ・ラマ法王日本代表部事務所のラクパ・ツォコ代表からじかにチベット中央政権の描く将来像をうかがいます。

チベット問題とは何か、チベットは何を求めているのかを端的に知る貴重な機会です。

チベットに関心を持つ方々のご参加をひろくお待ちしております。

チベット・インディペンデンス 2014：古代チベット王国の栄華

史実をつたえ 未来をつくる

日時：2014年2月15日（土）18:00 開場 18:30 開始

場所：若松地域センター 第1集会所

東京都新宿区若松町 12-6

都営大江戸線「若松河田」駅徒歩2分

内容：

1. 歴史講座：「唐蕃会盟碑」の意味と現在

講師 石濱裕美子教授（早稲田大学教育・総合科学学術院）

昨年（2013年）初夏、ラサ中心の旧市街地で「修復」名目の大工事が始まった。チベットの文化を尊重し伝統的建築物を保全するよう各国の研究者が中国政府に抗議の声を上げたことは記憶に新しい。「修復」を終えたラサ旧市街は、窓枠を派手に装飾され、柱には大げさな彫刻がつけられた「チベット風」に飾り立てられた。

この時、ジョカン寺の前に9世紀から残る唐蕃会盟碑も、これまでの石堀が取り壊されてガラス張りのケースに入れられ、周囲は中華風の装飾が施された広場に「修復」された。中国当局は今、この石碑を「古来よりチベットと中国が不可分であった証拠」として政治的プロパガンダに利用し始めている。

チベットと唐が国同士の対等の立場で和睦した歴史を知り、古代チベット王国の栄華をたどる。

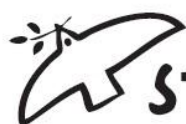
2. ゲストスピーチ：チベット中央政権の描く将来

来賓 ダライ・ラマ法王日本代表部事務所 ラクパ・ツォコ代表

参加：無料（カンパ歓迎）／予約不要

主催：Students for a Free Tibet Japan (SFT Japan)

<http://www.sftjapan.org/>



スチューデント フォー フリーチベット ジャパン

STUDENTS FOR A FREE TIBET JAPAN



どの国にも、近代国家への第一歩を踏み出した歴史的な日を記念する祝日があります。現在は不幸にして占領下にあるチベットも例外ではありません。SFTなどが加盟する国際チベットネットワーク（ITN）は、ドライ・ラマ13世がチベット国民に「ランワンランツェン（自力自強）」の自覚を求め布告を下した日（1913年2月13日）を、チベット独自の歴史を讃える重要な記念日として祝います。占領下にある国にとって、建国を祝うことは民族の自由を求める強い意思表示でもあります。

昨2013年2月13日は、東京を含む世界30以上の都市でチベット人と支援者がチベットの近代化100周年を祝いました。チベット国旗の掲揚、パネル展示、政府へのロビー活動——。これはチベットが独自の歴史を持つ独立国であったことを浮かび上がらせるアクションでもありました。亡命チベット人から公正な選挙で選ばれたチベット議会議員の代表は、チベット本土に住むチベット人と団結する意志を示しました。

史実をつたえ、未来をつくる

中国政府は、チベットが独立国であったという歴史を改竄し歪曲しています。最新の歴史改竄は、西暦821～822年にチベットと中国（唐）の間で結ばれた平和条約の印としてラサのジョカン寺前に建立された唐蕃会盟碑に関する嘘のプロパガンダです。チベットと唐が対等に交わした国家間の協定であるにもかかわらず、中国政府はこの石碑を「古来からチベットと中国が不可分であったあかし」などと、碑文の内容とかけ離れた主張をしているのです。

2014年のSFTは、古代チベットの重要な歴史遺跡「唐蕃会盟碑」をテーマに2月13日を祝福します。チベットの史実をねじ曲げる中国のプロパガンダに対抗すると同時に、国際的な舞台においてチベットの存在を更に高めるためのアクションです。

唐蕃会盟碑を顕彰し、過去の歴史を正しく伝えとともに、チベットの未来を切り開くのです。すべてのチベット人が、自由で民主的なチベットでともに暮らせる日を現実のものにするために。

唐蕃会盟碑が語る歴史

唐蕃会盟碑は、チベットの古代王国（漢文史料では「吐蕃」）が盛っていた西暦822年から今日まで、ラサのジョカン寺の外に力強く立ち続けています。

古代チベット王国は7世紀から9世紀（西暦618年～841年）の3世紀に渡って栄えました。その版図は現代のチベットの領域を超えて広がっていました。古代チベット王国の権力と影響力は、仏教を導入し、チベットの伝統的領域であるウーツァン、カム、アムドを一つにまとめた3人の王ソンツェン・ガムポ、ティソン・デツェン、レルパチェン（ティツク・デツェン）の統治下で急激に高まり繁栄しました。

第41代国王レルパチェンの時代に古代チベット王国は繁栄の頂点を極めました。勢力は唐を含む近隣国家まで及びました。チベット王国と唐の国境を定めた平和協定「和解の盟約（長慶会盟）」が調印されたのもこの期間中でした。

条文には「チベットはチベット国において安けく中国は中国において安けくならず」（チベット人はチベットの領土内で幸せに暮らす。中国人はチベットの領土と明確に隔てられた中国の領土で幸せに暮らす）という重要な一節があります。

唐蕃会盟碑は2国家間の重要な条約を残すため3柱の石碑に刻まれ、国境、唐の都長安、チベットの都ラサにそれぞれ建立されました。ラサ以外の2柱は失われましたが、ラサの碑はチベットの最も神聖な寺院であるジョカン寺の前に今も置かれています。碑の4面の、1面には条文の内容がチベット語と中国語で、もう1面には締結に至る経緯がチベット語で、残る2面には締結に立ち会ったチベットと唐の大臣の名前が刻まれています。

唐蕃会盟碑は古代チベット王国が自由で強大な存在であったことを示す歴史の証言者です。チベット人が自らの独立国としての歴史を祝い、将来の自由なチベットを実現するために努力する正当性を示す重要な根拠となります。

<https://www.studentsforafreetibet.org/campaigns/political-action/february-13-2014-year-of-the-tibetan-empire> を元に作成

SFT Japan の「古代チベット王国の栄華」ワークショップにぜひご参加下さい

日時：2014年2月15日（土）18:30～

場所：若松地域センター 第1集会室（東京都新宿区若松町12-6）

詳細は裏面へ